



「なごや歴まちびとの会」

日時 平成 25 年 6 月 2 日 (日) AM10 : 00 ~ 11 : 30

服部家住宅 見学会報告書

場所 愛知県弥富市荷之上町石仏 419

服部家



表門

平成 25 年 6 月 2 日 (日) に今年度、第 1 回目の見学会が「なごや歴まちびとの会」主催で、愛知県弥富市荷之上町石仏 419 にて「服部家の補修工事」を見学させて頂ける事になりました。

当日は、穏やかな天気で、意外にも公共交通の便がよいという事で、名鉄、尾西線を利用し「五ノ三」という何か目出度そうな駅名で降り、都会とは違った、のどかな田園風景の中を 5 分ほど、東へ向かって歩きますと、高木の深緑に包まれた処に建物がみえてきます。

服部家住宅は昭和 49 年 2 月 5 日に尾張平野の有数の古い民家で主屋、表門、離れ座敷、文庫蔵等が国の重要文化財に指定されています。



主屋

服部家の初代弥右衛門尉正友は、織田信長との戦乱の後、天正 4 年 (1576 年) 頃に旧領地荷之上城の跡に居を構え、戦乱で散った百姓などを招き寄せて荷之上村を再興したということです。 また、服部家は代々、大庄屋をつとめるとともに苗字帯刀を許されていました。

現地、南側には表門と称する茅葺の長屋門が現れ両脇には門と共に重要文化財に指定されている、見ごたえのある土塀があります。

門から中に入ると正面には天正年間に建てられた主屋がありますが、今回は工事中という事で足場が組まれてシートが掛けられて大変残念でしたが全体像は拝見することは出来ませんでした。

今回は茅葺屋根の葺きなおしの現場を見せていただくということで、歴まちびとにとりまして大変貴重な機会を頂いたとおもいます。

早速、足場を上らせてもらい茅の葺き替え作業を見学をさせて頂きました。丁度、手のひらのような「ガギ」という道具で軒先をそろえていました。

まだこれから茅を 70cm ほど積み重ね縮めていくという事でした。材料はヨシと称する「海茅」で、服部家が構えた場所は有名な輪中地帯でもあり、西に木曾川が流れ南には広大な伊勢湾があり海茅が群生していたからです。 ススキと称する「山茅」は一般的には関東方面で利用されているようです。

敷地の北奥には木曾川の氾濫に備え一段かさ上げた敷地に建つ平屋建て、瓦葺きの離れ座敷が主屋と渡り廊下でつながっています。さらに奥には文庫蔵、道具蔵が建っている。 また表門近くには今回拝見しなかった茶室があり、服部家がこの地域の有力者であったことを物語るに足る立派な構えである。

維持管理には今後大変であろうと思いますが、所有者、行政、民間、そして地域等の協同参画で保存されていくことを願います。

今回の見学会は 36 名という多くのかたに参加していただきました。参加された方にとり大変有意義な時間と空間を過ごされたことと思います。企画担当されました皆様、ご苦労様でした。

歴まちびとⅡ期生 後藤 晃範 (宣正)



茅葺



縄をとっている



茅葺